

東京都新宿区北新宿1-8-16  
東京土建一般労働組合  
電話03 (5332) 3971 (代表)  
FAX03 (5332) 3972  
発行人・編集人  
三木 勉

印刷部数11万4100部  
(購読料は組合費のなかに含まれています)  
年間購読料 千八百円  
定価 五十円

# けんせつ

東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

## 都連賃金討議 アンケート

11・12月に、賃金・仕事と生活をめぐる討議を分会・群で行なっています。賃金だけだけでなく現場での働き方の要求なども出しましょう。支部でアンケートを集約しますので協力ください。



松丸委員長

秋の拡大月間の成功に向け、連日、また昼夜を問わず奮闘された仲間のみならず、心から感謝を申し上げます。この月間では建設現場を取り巻く過酷な実態(新国立競技場の過労死自殺から丸の内3-2現場のパワハラや多摩ビル火災等)が露呈する中で、仲間の仕事・暮らしを守る月間、そして今こそ組合が求められた月間でもありました。

## 秋の組織拡大 月間目標 達成しました

松丸一雄委員長

この秋は3つの組織活動をさらに発展させ、「群会議オルグ」「タイムス等を切り口とした事業所対策課題」「後継者世代の任務と役割及び分定着」の方針を打ち出し、さらに主体的な運動を自らがいかにつくれるのかを課題とし、全都で奮闘してきました。

全都での秋の月間拡大数は累計4125人・月間拡大率は3.57%に到達し、秋の月間3.5%目標を達成しました。また23支部が秋の月間目標を突破し、(年間拡大到達率は10.93%)、19支部が1月組織現勢を上回っています。しかし、東京土建の組織現勢は11万5221人、1月比100人減となりました。舞台は第3ラウンド、11・12月に移ります。新たに加入した仲間とのつながり強化、そして共に活動する仲間を増やし、組織を強固にしな

ら、「増やし・減らさない組織づくり」を目指しましょう。全支部が団結し、年末課題に向け組織増勢を勝ち取りましょう。

## 19支部が1月現勢上回る

## 企業交渉

# 空前の利益を還元せよ 若者に選ばれる建設産業に

10月25・26日(一部別日程)、全建総連関東地方協議会連絡会は日本教育会館で第68回建設・住宅企業交渉を開催しました。1日目が10県連348人、2日目が10県連362人が参加し、ゼネコン27社、サブコン3社、住宅企業8社と交渉しました。(主な交渉は4・5面に掲載)

1日目の冒頭、三協代表挨拶に立った松丸一雄委員長は、協議長(東京土建委員長)は、ゼネコンや住宅企業には余力があるのに現場に法定福利費が届いていないと批判し、「組合へ変えていこう」と呼びか

合は新国立競技場や丸の内現場で改善要求してきた。組織増勢の力で要求実現をしていこう」と訴えました。

全建総連本部からは勝野圭司書記長が挨拶し、働き方改革で2024年には建設業でも残業上限規制が実施されるなどの変化を指摘。「日建連は週休2日実現の計画をもち、賃金引き上げに向けては『労務費見直し尊重宣言』を出しており、元請として動かなくてはならなくなっている。大手は史上最高益をあげており、賃金引き上げの原資はある。若者に選ばれる建設業へ変えていこう」と呼びか



企業交渉の先頭に立つ団長のみなさん

けました。現場からの報告は東京土建、埼玉土建、千葉土建(1面に掲載)の仲間が発言しました。

要求説明を行なった長谷部康幸関東地協連絡会賃金対策事務局次長は、「本日の現場からの報告を聞いていても、最後に交渉団長が登壇し、交渉成功の決意を込めた団結カンパニーで閉会しました。

組合や業界団体が現場労働者の処遇改善をうたっているが、元請の体質は何も変わっていない。今回の企業交渉の記録を企業側に議事録として残させ、私たちの要求を社内検討させていくようにしたい。検討課題を残せる交渉にしましょう」と述べました。

## 現場変えた組合の力

### 千葉土建の仲間が報告



丸の内3-2計画現場宣伝行動(7月26日)

声がかきました。1次や2次の監督らも、作業員も、みんなが怒り、私共も外に出ましたが、千葉土建をはじめ、東京・埼玉・神奈川の皆さんが駆けつけてくれたのを目にしたとき、「組合ってすげえー」と思いました。現場から出てくる作業員らは、組合の人たち、丸の内現場を話していました。「死亡事故の結果、大幅に遅れた工期を、下請のせいにして、元請である大成建設は話を聞か

宣伝当日、私は20階で作業をしていました。すると、「外で何かやってるぞー」という声が聞こえ、作業員の多くが、窓際に外を見に行きました。私は「本当に組合が来てくれた」と思いました。すると、「組合だ。組合が来たぞ」という声とともに「オー」という歓

## 朝やけ

■米中間選挙は与野共党が下院で敗北、上院で再戦状態となった。

■この変化をもたらした動きをマイケル・ムーア監督は映画「華氏119」で描いている。映画ではトランプ大統領の誕生と民主党の混乱という絶望的な状況のなかでも、低賃金にあえぐ、ウエストヴァージニア州の公立学校教師のストライキや、銃乱射事件をきっかけに銃規制強化を訴えるフロリダ州の高校生運動など、民主主義を取り戻す新しい動きに注目し、今回の中間選挙で変えていこうと訴える。

■現代のファシズムはテレビに出てくる笑顔で私たちを取り込んでいくトランプは日本のメディアのインタビューで話したが、別のインタビューではニュースキャスターが世界でナショナリズムが台頭してきていると述べたところ、ムーアはナショナリズムの台頭ではなく、ファシズムの台頭なんだと訂正した。トランプ大統領の友人が政権を担う日本で何が起るのか。私たちはテレビで見る笑顔の裏にあるものを感じとらねばならないようだ。